

ふじのくに 静岡みなと通信

vol.25
春12号
2016.1.22



客船「飛鳥II」と富士山(平成27年9月19日清水港)

～ 目次 ～

- 静岡みなと通信「春12号」発行に
寄せて(伊東市長) 1
- 港湾関係行事予定 1
- みなとニュース 2
- みなと自慢(御前崎港) 7
- 港こぼれ話 9
- 静岡県港湾振興会の活動報告 11

静岡県港湾振興会



帆船「日本丸」登しょう礼(平成27年11月3日清水港)

静岡みなと通信「春12号」発行に寄せて



静岡県港湾振興会評議員
伊東市長 伊 弘巳

当市の海岸線は、北部から南部にかけて約42kmの延長を有しており、海浜に恵まれた北部とともに、城ヶ崎海岸のある南部は火山溶岩によって複雑に入り組んだ海岸線が形成されるなど、自然景観に恵まれています。

その中で伊東港は、昔から水産業や温泉観光地の拠点として発展してきましたが、さらなる観光振興とともに、大規模災害時に市民や観光客の避難及び緊急物資等の輸送といった防災面からも、大型船が接岸できる港湾整備が急務であると考えています。

また、伊東港の「伊東マリンタウン」は、平成14年に「道の駅」として登録され、その後、平成17年には「海の駅」としても登録されたことから、海陸一体となった「道の駅・海の駅」となり、伊豆地域の観光拠点として、市民はもとより観光客にも親しまれています。

一方、公共マリーナは、台風等の高波により度重なる被害を受けたため、さらに災害に強いマリーナを目指し、本年度から港内の静穏度を高めるための防波堤延伸事業に着手しています。

結びに、「静岡県港湾振興会」におかれましては、引き続き港湾や海岸の整備促進にご尽力いただくとともに、本会の活動を通じて、多くの皆様に港湾整備や利用促進に対して一層のご理解とご支援をいただければ幸いです。



伊東マリンタウンとマリーナ

港湾関係行事予定 (平成28年2月1日～平成28年7月31日)

日 程	内 容	日 程	内 容
毎月第1(日曜日)	海湖館朝市(湖西市)	5月28日(土)	第8回 めまづ港の街BAR(パル) (沼津市 沼津港周辺)
毎月第1・3週末と連休	なかはまつ設市(熱海市 うみえーる長浜)	5月28日(土)	第6回 御前崎みなとかつお祭り(御前崎市 御前崎魚市場)
1月9日(土)・1月10日(日)	網代温泉ひもの祭り(熱海市 大縄公園)	5月28日(土)～5月30日(月)	天草・ところてん祭り(西伊豆町 堂ヶ島公園)
2月27日(土)・2月28日(日)	網代温泉ひもの祭り(熱海市 うみえーる長浜)	6月30日(木)	静波海水浴場海開き(牧之原市 静波海岸)
3月5日(土)～3月7日(月)	多賀わかめ祭り(熱海市 うみえーる長浜)	7月1日(金)	さからサンビーチ海水浴場海開き(牧之原市 さからサンビーチ)
3月8日(火)	客船「セブンス・ポイジャー」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月上旬	SHIZUNAMI BEACH SOCCER(牧之原市 静波海岸)
3月13日(日)	客船「ノーティカ」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月上旬	御前崎海水浴場海開き(御前崎市 マリンパーク御前崎)
3月14日(月)	客船「アルタニア」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月17日(日)	田子浦みなと祭り(富士市 ふじのくに田子の浦みなと公園)
3月20日(日)～4月5日(火)	風の花祭り(下田市 まどが浜海遊公園)	7月中旬	国際カジキ釣り大会(下田沖)
4月2日(土)	客船「ル・ソリアル」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月中旬	マリンフェスタ(下田市内)
4月9日(土)・5月14日(土)	春季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)	7月中旬	白浜海の祭典・花火大会(下田市 白浜大浜海岸)
4月12日(火)	客船「クリスタル・セレニティ」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)	7月18日(月・祝)	客船「ダイヤモンド・プリンセス」入港(静岡市 清水港日の出埠頭)
4月17日(日)	ポートタウンパーティー(沼津市 沼津港)	7月21日(木)	網代ベイフェスティバル(熱海市 網代港)
4月23日(土)・4月24日(日)	自遊食環フェア 御前崎シーサイドピクニック(御前崎市 マリンパーク御前崎)	7月22日(金)	田子の浦港海上安全祈願祭(田子の浦港 吉原埠頭)
4月24日(日)	第40回さから草競馬大会(牧之原市 さからサンビーチ)	7月24日(日)	堂ヶ島火祭り(西伊豆町 堂ヶ島公園)
5月1日(日)～5月5日(木祝)	第41回初島ところ天祭り(熱海市 初島港特設会場)	7月24日(日)	客船「こっぽん丸」入港(熱海市 熱海港-7.5m岸壁)
5月3日(火)～5月5日(木祝)	御前崎灯台まつり(御前崎市 御前崎灯台)	7月24日(日)	マリンフェスタ・アタミ2016(熱海市 渚親水公園)
5月4日(水祝)・5月5日(木祝)	伊豆山伊勢海老磯まつり(熱海市 伊豆山港浜特設会場)	7月24日(日)・7月29日(金)	夏季熱海海上花火大会(熱海市 熱海湾)
5月20日(金)～5月22日(日)	黒船祭(下田市内各会場)	7月30日(土)・7月31日(日)	伊東温泉「夢花火」(伊東市 伊東海岸)
5月21日(土)	第44回 沼津水産祭(沼津市 沼津港)	7月下旬	しずなみ海水まつり花火大会(牧之原市 静波海岸)



みなとニュース



ロジスティクスソリューションフェア2015に静岡市が初出展

平成27年9月8日(火)、9日(水)、東京ビッグサイトにおいて、「ロジスティクスソリューションフェア2015」に出展し、静岡市の立地優位性や助成制度などをPRしました。本展示会は、2年に1度の開催で、国内の物流関連事業者を対象としており、来場者数は2日間合計で13,000名を超え、前回は上回る盛り上がりとなりました。

ブース内やプレゼンテーションセミナーにおいて、東名高速道路や新東名高速道路、中部横断自動車道、清水港の交通インフラや産業集積などの立地優位性のほか、静岡市の呈茶やものづくりのまちを表したノベルティを用いて、静岡市のPRを行いました。行政だけでなく、民間事業者の協力を得た官民連携の対応により、静岡市への進出や清水港利用の促進につなげることに努めました。

今回の出展で得られた成果や課題を活かし、今後も継続して、情報発信に力を入れて取り組んでいきます。



静岡市PRブース



プレゼンテーションセミナー

清水港マグロまつり2015の開催

平成27年10月11日(日)、JR清水駅東口広場周辺で「清水港マグロまつり2015」を開催しました。この「マグロまつり」は、今年で9回目を迎え清水港の秋の風物詩となっています。当日は午前中の雨にも関わらず、市内外から55,500人が来場し大盛況でした。

メイン会場での「マグロ汁の無料提供のコーナー」や「マグロ体重当てクイズ」、清水魚市場での「マグロの解体ショー」など、子どもからお年寄りまで、多くの方々が、マグロづくしのお祭りを堪能しました。このほか、ベイブロンナード号の「清水港クルーズ」、「マイナス60℃体験」などの体験型イベントや江尻港での勇壮な「ドラゴンボートレース」などもマグロまつりに華を添えました。

10回目の開催となる来年も、引き続き実行委員会を中心として「清水港マグロまつり」を盛り上げ、「まぐろのまち静岡」を全国に発信していきます。



マグロ解体ショー



清水港マグロまつり会場の様子

諏訪圏工業メッセ2015 に出展

清水港ポートセールス実行委員会(県、静岡市及び清水港利用促進協会で組織)は、平成27年10月15日(木)から17日(土)まで長野県諏訪市で開催された「諏訪圏工業メッセ2015」に昨年に引き続きブースを出展しました。

同メッセは平成14年から信州・諏訪地域6市町村の経済団体と行政機関等が協力し開催する国内最大級の工業専門展示会で、今年は403社、533ブースが出展し、2万7千人を超える来場者で盛大に行われました。

清水港では、平成29年度の中部横断自動車道開通による甲府市と静岡市清水区間の所要時間短縮が見込まれる中、長野県、山梨県の貨物を清水港に誘致する絶好の機会と捉え、各種の貨物誘致活動を展開しており、今回のブース出展もその取組の一環となります。

今年は、ブース出展に加え、開催期間中2回のプレゼンテーションを行い、清水港が諏訪地域にとって最も近い港であること、中部横断自動車道開通により所要時間が大幅に短縮されること、また来年度導入予定の長野県コンテナ貨物への加算助成など、清水港利用の優位性を訴えかけ、来場者からも高い関心を集めました。



清水港ポートセールス実行委員会の出展ブース



プレゼンテーションの様子

「清水港 日の出地区の交流拠点の創出」

世界のクルーズ人口は、急激に増加しており、国土交通省では、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014」に基づき、2020年の「クルーズ100万人時代」の実現に向けて様々な取組を進めてきたところですが、12月8日の博多港へのクルーズ船の寄港で、クルーズ船により入国した外国人旅行客数が年間100万人の大台に到達し、国の計画より5年早い「クルーズ100万人時代」の到来となりました。

この様な状況の中、富士山の世界遺産登録もあいまって、清水港のクルーズ船入港回数も増加しています。

清水港でのクルーズ船の受入は日の出地区の4・5号岸壁で行われておりますが、通常時は、木材や紙パルプを輸入する岸壁として使用されており、クルーズ船入港時には可動式のソーラスフェンスを移設することでクルーズ船の受入に対応しています。

この様に、清水港におけるクルーズ船の受入環境は未だ充分であるとは言えない状況です。

クルーズ船の入港時には一度に1万人を超える乗客や見物客が訪れることから、静岡県は、クルーズ船受入環境を改善し、人が集い、楽しみ、憩う快適な空間を創出するため、日の出地区に、交流拠点づくりを進めることとしています。

具体的には、日の出地区の耐震性のない老朽化した4・5号上屋の移転を行い、跡地に津波防護機能を兼ね備えた緑地等を整備し交流空間へ利用転換を図るとともに、清水マリナーミナルの上屋機能を合わせて移転し、商業施設等への転換を図ることとしています。

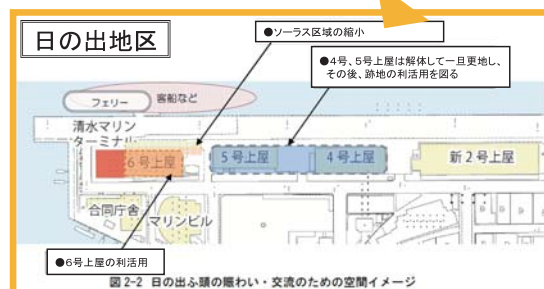
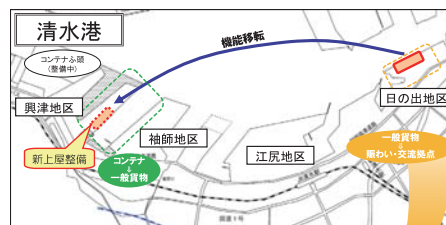


図 2-2 日の出の賑わい・交流のための空間イメージ

「御前崎港セミナー」を開催しました

御前崎港ポートセールス実行委員会(静岡県、御前崎市、牧之原市、民間事業者で組織)は、御前崎港の利用促進を図るため、平成27年10月20日(火)に浜松市内のホテルで県中西部の荷主企業や船社など約220人が出席する中、御前崎港セミナーを開催しました。主催者を代表して石原茂雄御前崎市長は、御前崎港が本県中・西部地域の真の物流拠点として魅力ある港となるよう関係者一同、これまで以上に努め、また、港という地域特有の資源を活かした活力のある地域づくりに努めていきたいと挨拶しました。

大須賀正孝浜松商工会議所会頭及び守屋正平中部地方整備局副局長の来賓挨拶に続き、進藤弘之静岡県御前崎港管理事務所長が御前崎港の概要を説明しました。

また、篠原正人東海大学海洋学部主任教授が「御前崎港の将来性」をテーマに講演し、中小型船を中心とした多様な需要に応じたサービスについて提案されました。

その後開かれた交流会では、川勝平太静岡県知事や鈴木修スズキ株式会社取締役会長が参加し、活発な意見交換が行われました。



講演する篠原正人東海大学海洋学部主任教授



交流会で挨拶する川勝知事

首都圏の港湾ユーザーに対して清水港を大々的にPR

清水港ポートセールス実行委員会(静岡県、静岡市、清水港利用促進協会で組織)は、平成27年10月30日(金)に都内ホテルで「首都圏清水港セミナー」を開催しました。当セミナーは、首都圏に拠点を有する荷主企業に対して清水港の利用を働き掛けるとともに、船会社の在京本社に対してコンテナ定期航路の維持・開設を訴えることを目的として毎年開催しているもので、今年も約950名の参加者の下、盛大に行われました。

始めに、清水港利用促進協会の鈴木与平会長が挨拶で、「清水港の平成26年のコンテナ取扱量は51.5万TEUに上り、かつ増加傾向にある」「清水港を取巻く充実した道路網がもたらす抜群のアクセス良さや、国内随一の荷役効率は、輸送リードタイムの短縮と定時性の確保に大きく貢献できる」と主張し、清水港の利用を強く訴えかけました。

続いて、港湾議員連盟会長の望月義夫衆議院議員及び国土交通省港湾局の菊地身智雄局長の挨拶、清水港のプレゼンテーション、東京大学大学院の伊藤元重教授の講演ののちに、懇談会に移行しました。

清水港では、首都圏の貨物とコンテナ定期航路を誘致するべく、今後も積極的な働き掛けを続けることとしています。



挨拶する鈴木会長



懇談会会場の様子

静岡県港湾振興会の県外港湾視察研修

静岡県港湾振興会では、平成27年11月4日(水)～6日(金)の3日間、会員団体等から19名が参加し、福岡県の博多港、北九州港、山口県の下関港の視察研修を実施しました。

博多港では、海上視察の後、香椎コンテナターミナル、アイランドシティコンテナターミナルを視察しました。博多港物流ITシステム(HITS)では、平成25年9月2日からスマートフォンへのサービスが開始され、コンテナの荷役状況などを事前に見ることができる等、作業者が外出先や移動先からも的確に情報収集ができ、作業の効率性が向上したとの話がありました。2日目は、博多港国際ターミナル、中央ふ頭クルーズセンターを視察しました。クルーズ船の寄港は、平成26年度が115回、平成27年11月5日現在では264回と急増しており、ノービザで来られることやショートクルーズで3か国(日中韓)を巡ることができる寄港地として最適な場所に位置していることなどを増加の理由にあげられました。



豪華客船クアンタム・オブ・ザ・シーズ(博多港海上視察からの眺め)



博多港国際ターミナル展望デッキにて概要説明

北九州港では、響灘の埋立地区にある北九州市エコタウンセンターにて北九州市の環境産業振興施設であるエコタウン事業の説明、工場見学の後、産業廃棄物などの循環資源の荷役に対応した施設を有する全国初の公共岸壁である、北九州リサイクルポートを視察しました。

下関港では、客船誘致に向けた取組とウォーターフロント開発エリアの説明を受けました。対岸の門司港レトロ地区とあわせて「海峡まるごとテーマパーク」を基本コンセプトに、多くの人が集い、憩い、賑わう魅力的な海辺空間づくりが進められています。視察当日は、天候に恵まれ、海峡沿いのウォーターフロントエリア(水族館、市場等)を視察しました。

視察日は好天に恵まれるとともに、各担当者からの丁寧な概要説明をいただき大変有意義な研修となりました。



北九州市エコタウンセンター



下関港ウォーターフロントエリア

第14回全国漁港漁場整備技術研究発表会を開催!!

県では、水産庁と全国漁港漁場協会との共催にて、平成27年10月27日(火)から28日(水)にかけて「第14回全国漁港漁場整備技術研究発表会」を開催しました。この会は、「漁港漁場整備技術の向上と普及を目的とした全国的な情報・意見交換の場」という目的のもと、昭和31年に「全国漁港建設技術研究発表会」として開催されたのが始まりであり、平成14年度に「全国漁港漁場整備技術研究発表会」と名称が変わりましたが、本年度で通算60回目(名称変更後は14回目)の開催となる歴史ある会です(本県での開催は初!)

開催当日は、官公庁や民間の漁港漁場の業務に携わる職員・技術者が、全国から多数出席し、約230名が参加した初日(27日)には、漁港漁場整備に関する取組み・研究等について15名の方から報告が行われました。本県からは、袋井土木事務所の戸田主査が福田漁港・浅羽海岸サンドバイパスシステムについて、水産技術研究所の永倉研究員が県の磯焼け対策について取組状況を報告しました。



水産庁漁港漁場整備部 高吉部長による挨拶



袋井土木事務所 戸田主査による発表

2日目(28日)の現地視察には、約130名が参加し、視察先の福田漁港では、袋井土木事務所と磐田市の協力のもと、サンドバイパスシステム(注)を中心に、耐震強化岸壁、海釣り施設、そして磐田市の「食の拠点づくり」の取組等を紹介しました。参加者には、今後の漁港の在り方のひとつを示すことができたのではないかと考えます。また、地元の遠州漁協の御好意による地元名産のシラスの振る舞い、焼津さかなセンターでの昼食を通じて、本県の水産について満喫していただけたのではないかと思います。



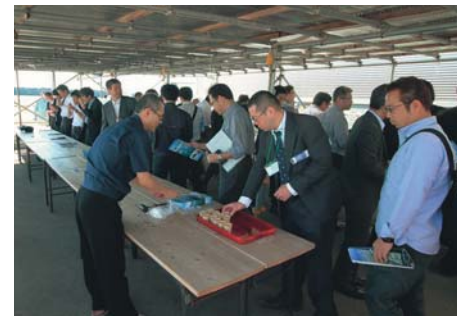
ポンプ場における視察状況



土砂の吸上げを模型にて再現



食の拠点整備(事業主体:磐田市)



遠州漁協によるおもてなし

天候にも恵まれて、大盛況のうちに閉会した発表会ですが、多くの方のご支援が無ければ、開催にこぎつけることは難しかったと思います。この場を借りて関係者の皆さんに深く御礼申し上げます。来年度は、富山県で開催される予定です。

(注) サンドバイパスシステム: ダムや防波堤などの構造物の上手に堆積した土砂をジェットポンプで採取し、下手側の侵食箇所等へパイプラインを使用して輸送する手法の総称。

みなと“白慢”

御前崎市商工観光課

～歴史と賑わい振興～

1. 御前崎港の沿革

御前崎港は、遠州灘と駿河湾を隔てる小半島が天然の防波堤となり、季節風に対して静穏な水面を有し、古くから付近を航行する船舶の退避場所として利用されてきました。このように地理的条件に恵まれ、関係各方面からの熱烈な要望もあって、昭和11年に避難港として指定を受けました。しかしながら、戦時中は港湾建設の着工がされず、実際に避難港として整備が進められたのは、戦後の昭和23年になってからになります。以来、昭和34年にかけて防波堤整備と泊地整備が行われ、避難港として工事が完成しました。

この間、昭和26年に港湾法に基づく地方港湾の指定を受け、昭和34年度から昭和44年度にかけて埠頭やケーソンヤードが整備されました。

昭和46年には、関税法に基づく開港の指定を受け、これを契機に木材輸入が飛躍的に増大しました。

このような港勢の進展に伴い、昭和50年に港湾法に基づく重要港湾の指定を受けました。この頃から、木材港としてのみならず県中西部における物流、産業開発の拠点として多目的な利用を目指した港湾計画が策定され、大型船に対応する埠頭の整備など港湾機能の拡充が図られました。

これらの整備の進展を受け、平成3年にRORO船による定期航路の開設、平成9年には完成自動車の輸出の開始、平成16年にはコンテナクレーンを備えた女岩地区国際物流ターミナルが供用開始しました。



空から見た御前崎港(写真提供:御前崎港管理事務所)

2. みなとの景観、集客スポット



海鮮なぶら市場

御前崎港には、物流機能としての港の顔だけでなく、御前崎の岬を中心とした海岸景観を中心に多くの景観、集客スポットがあります。

平成9年にオープンした「海鮮なぶら市場」は、海遊館・食遊館の2棟からなる商業施設で、海遊館では、御前崎港に水揚げされる海の幸を始め、全国津々浦々の海産物、観光土産品が揃っています。食遊館では、新鮮な海の幸を使った料理が楽しめることから、御前崎の旬の魚や海産物を求める大勢の人たちでにぎわっています。

マリパーク御前崎は、御前崎港の東側にある海浜公園で、施設内には、砂浜が白く輝く快適で安全な入江式の海水浴場や緑の芝生が鮮やかな多目的広場、キッズ広場にはタートルスライダーなどがあり、ご家族揃って楽しめる施設です。夏には、毎年みなと夏祭が開催され、花火大会には、多くの人で賑わっています。



マリパーク御前崎



御前崎灯台

岬の先端にある、御前崎灯台は、1874年イギリス人技師の監督のもとに誕生した白亜の洋式灯台です。百三十余年という長い時を、烈風や地震等にも屈せず、美しい姿を保ちながら海の安全を見守っています。一般に公開されているため、灯台の内部に入ることができ、灯台上からは太平洋を一望することができます。天気が良ければ、伊豆半島、富士山、南アルプス、遠州灘と360°見渡すことができます。

3.みなとオアシス御前崎



みなとオアシス御前崎認定式

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、認定・登録されたものをいいます。平成27年8月1日に、沼津港、大井川港に次ぐ静岡県内3港目の『みなとオアシス』として、中部地方整備局から認定を受けました。「みなとオアシス」に登録されることにより、多様な情報発信が行われるとともに、住民参加型の各種既存イベントの実施と相まって、より多くの交流が生まれ、相乗的な賑わい創出が可能となります。また、県内や中部管内

の「みなとオアシス」との連携を図りながら、観光の拠点を創り、地域振興を促すなど、みなとまちづくりを進めていきます。

4.海の貴婦人「海王丸」寄港

平成27年8月14日から18日にかけて海王丸が御前崎港に寄港しました。期間中は、セイルドリルの披露や船内の一般公開、夜間のライトアップ、出港時の登し礼が行われ、御前崎市内はもとより県外からも多くの方が訪れました。御前崎港へは5年ぶりの寄港とあって、前回の倍となる4万人以上の方が訪れました。



海王丸寄港(セイルドリル)

5.おわりに

御前崎港は、避難港、木材港、物流の港湾と移り変わりながら発展し、重要港湾に指定されてから40年が経過しました。

今後は、物が行き交う港としてだけでなく、様々なイベントを通して、多くの方が港を利用し、人々が行き交う賑わい交流拠点にしていきたいと思っております。

～港こぼれ話～

愛称「びゅうお」誕生のうらばなし

元静岡県交通基盤部港湾局港湾整備課長
稲垣 秀敏



1.はじめに

地上から30mの高さにある「2階」にエレベーターで上がると「わー!!」との声が真っ先に湧き上がる。これは、沼津港大型展望水門「びゅうお」の展望室に初めて上った方の声だ。この展望回廊からは、眼下に沼津港の水面、千本松原の緑、周囲を見渡せば狩野川、駿河湾、沼津アルプス、富士山、愛鷹山や箱根連山の山々など360度の眺望ができ、歓声が上がるとも当然なことかもしれない。もちろん、津波防護施設として、約50haの防護面積と約9千人の防護人口を受け持っている水門でもある。



公園側からの全景

2.「びゅうお」の建設

平成8年度に調査設計に着手してから9ヵ年かかり、事業費は約43億円(内約4億円が展望施設関係で沼津市費)でした。メンテナンスフリーを実現するために、スチールの両面をステンレスでサンドイッチ状に加工した「クラッド鋼板」製の扉体を使用したゲート設備全体の重量は、923tであり、現在でも日本一の巨大水門です。

私は、ちょうど完成年度に沼津土木事務所港湾課長として転任したのですが、歴代の建設に携わった先輩や関係諸氏のご尽力により、平成16年9月末に予定より少し遅れて完成しました。



外港側からの「びゅうお」

3.愛称審査委員会

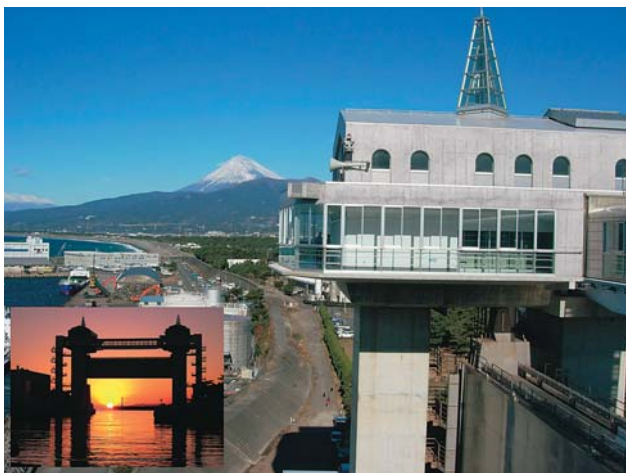
さて、完成の目途がついてきた5月頃から、水門の愛称を募集しようということになり、県民だより、沼津市広報やインターネットを通じ、7月の1ヶ月間に一般公募することとしました。

市が事務局となり、愛称審査委員には、沼津商工会議所会頭を委員長として、みなと商店会、港湾関係者、周辺自治会、県・市の行政の代表者などを選定する予定でした。ところが、沼津土木事務所Y所長から、「委員には女子高校生を入れるように!」との指示があり、怪訝顔の事務局に伝えました。この結果、沼津西高の女子生徒会役員が追加され、後の愛称選定に大きな影響を与えるとは、思いもなかったのです。

愛称への応募は、全国から1,254作品もあり、一次選考で25作品に絞られました。選考委員会では、さらに3作品に抽出するのですが、それぞれの委員が推薦作品を上げていくと、独創性のない一般的な「潮の音ゲート」などに得票が集中し、このままいくと、このあたりにほぼ決するかと思えました。この時、委員の一人の女子高校生がはっきりとした大きな声で、「こんな愛称では、私たち若い子は誰も来ないと思います!!」…“びっくりポンや”…の発言でしたが、こ

れに他のおじさんおばさん委員も同期されてしまい、それぞれ再考したのです。その結果、3作品には、「びゅうお」、「アージ・ポーラ」、「あくあばる」が選定されました。最多得票の「びゅうお」が採用作品となり、他の2作品は優秀賞となったのです。

今日では「びゅうお」の愛称は、かなり広くの方に認知されていますが、東京都調布市の女性会社員の方の応募作品であり、ワイド・ビュー、オーシャン・ビューのビューと魚で、呼びやすく可愛らしい「ビュー+魚(うお)」=「びゅうお」と名付けられたのでした。正しく、ヤングウーマンパワーがおじんおぼんの心を動かした出来事であったと、「びゅうお」の話題の折には、今でも語り草にしております。



展望施設と富士山の眺望

4. 視察者の急増

「びゅうお」の完成は、平成16年9月末でしたが、その年の12月に、死者・不明者22万人を超えたスマトラ沖地震が発生しました。日本では、2011.3.11の東日本大震災の記憶の方が遥かに鮮明に残っておりますが、当時は、テレビ映像で何回も放映され、津波

の脅威を知らしめた未曾有の地震災害でした。

このため、海外や国内から地震・津波対策先進国日本、そして東海地震対策を長年進めている先進県静岡県に来訪する研修・視察団が急増しました。各国の政府関係者、行政、報道、研究者などが、津波対策の象徴的な施設「水門=びゅうお」の視察に訪れました。当時、県庁の防災局を訪れ、県全体の地震防災対策のレクチャーを受け、現場視察として津波対策の象徴的な施設「びゅうお」に来訪するコースが出来上がっていました。現場の視察対応は沼津土木事務所が対応することになり、港湾課長として在任中は可能な限り対応させていただき、津波対策の啓発活動に大きな貢献ができたのかなと思っております。施設の完成と未曾有の地震災害とのタイミングが合い、この様な貴重な体験ができたものと感謝しております。

5. おわりに

静岡県第4次地震被害想定で津波高が見直され、今後新たな整備も必要になると思われませんが、建設時には遠隔監視のみであった「びゅうお」も津波防災ステーションに組み込まれ、平成25年からは沼津土木事務所と沼津市役所で遠隔操作が可能な施設に進化し、津波防護施設の象徴であることにはまちがいありません。

本年度、「沼津港振興ビジョン」に代わるものとして、新たな「沼津港みなとまちづくり推進計画」が策定されました。みなとまちとして魅力ある沼津港の振興を陰ながら応援しておりますが、完成から10年間で100万人の来場者を記録した「びゅうお」はその中においても、ランドマークとなる施設であり、未永く愛されて欲しいものです。



幻想的な夜の「びゅうお」

静岡県港湾振興会の活動報告

静岡県港湾整備促進大会を開催

平成27年7月28日(火)、ホテルセンチュリー静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等の御参加をいただき、港湾整備促進大会を開催しました。

田辺港湾振興会会長(静岡市長)のごあいさつの後、吉川県議会議長、難波静岡県副知事をはじめ来賓の方々からごあいさつをいただきました。

御出席をいただいた市町長から「地域の声」と題して意見発表をいただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また大会に先立ち、東海大学海洋学部篠原正人教授を講師にお迎えし、「港湾政策の方向性と静岡県港湾の可能性」と題して、御講演をいただきました。



田辺会長(静岡市長)あいさつ



小長井副会長(富士市)による決議文の読み上げ



講演会の様子

経済と暮らしを支える港づくり全国大会に参加

平成27年10月22日(木)、東京の砂防会館において、日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体による実行委員会が主催する、「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が開催されました。

当振興会からは小長井富士市長、石原御前崎市長、齊藤熱海市市長、楠山下田市長をはじめ28名が出席されました。

大会では、来賓として多数の国会議員をお招きし、各地区の港湾所在市町村長の代表による港湾整備振興に関する意見表明、港湾整備の推進に向けた決議が行われました。

大会に先立ち、ホテルグランドアーク半蔵門で東海地区港湾協議会主催による国会議員との懇談会が行われ、小長井富士市長が静岡県代表として意見を表明され、本県港湾整備への支援を訴えました。

大会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。



経済と暮らしを支える港づくり全国大会の様子

編集後記 |

新春のおよこびを申し上げます。

平成27年11月4日～6日に行われた県外港湾視察に同行させていただきました。ご多忙中にも関わらず、多数の会員の皆様にご出席をいただき無事に視察を終えることができましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。

本年も例年以上に、当振興会及び東海地区港湾協議会活動に積極的な参加をよろしくお願いいたします。

今年が皆様にとって良い年になるようお祈り申し上げます。(K.H.)

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。